太平洋の仲間達

ナイスデイツアー　富岡 一郎

太平洋の仲間達は、日本と太平洋島嶼国をつなぐ、企業、団体、個人を紹介するコーナーです。今回は、永年に亘って日本とパラオの橋渡し役をされている「ナイスデイツアー」の富岡さんより活動をご紹介いただきました。

読者の皆様、アリー！（パラオ語でこんにちは）パラオの専門店「ナイスデイツアー」の富岡です。弊社は1984年、グアム・パラオ間のフライトが週3便だった時代からパラオの旅行を手掛けてまいりました。当時のパラオはダイバーが潜りに行くところで一般の方が観光で行く国ではありませんでした。それ故、一般的には知られておらず、お勧めしても「パナマ？」なんていわれる時代、弊社ではそんな頃から現地手配会社のベラウツアーと一緒になってパラオのパッケージツアーを提供してまいりました。

30数年前、初めて訪問した時にボートの上からキラキラと輝く水面を見て『こんなにキレイなところが地球上にあるんだ！』と感動し、日本の皆さまにこの景色を是非見ていただきたいと強く思ったのを思い出します。青い空と碧い海しか無いパラオ、でもその空と海のスケールの大きなこと、ダイナミックなこと、圧倒的な大自然に身も心も奪われました。

また、コロールの街をぶらぶらしているとおじいちゃんやおばあちゃんが日本語で話しかけてくれます。そう、1945年までパラオは日本でした。パラオの人たち独特のまったりとしたあたたかさに触れてますますパラオが好きになりました。日本とのつながりを大切にしてくれる大の親日国パラオは当時も今も変わりません。1985年2月にはパラオパシフィックリゾート（PPR）が開業、1995年にはグアム経由でしか行けなかったパラオに日本航空が僅か4時間30分で行ける直行チャーター便を運航、ノンダイバーといわれる一般のお客様が一気に増えました。

最近は手付かずの大自然が残る北部に注目が！

パラオを訪れる観光客の第1位はずっと日本でしたが2000年頃に台湾からのフライトが飛び始め渡航者数で日本と台湾がトップを争う時代に入りました。その後、韓国からの直行便も入り始めチャーターが重なるとホテルが取りづらいこともありましたが当社は地道にコツコツと良いツアーを提供することを念頭においてご案内を続けてまいりました。小さな旅行会社ではありますが熱意と誠実を肝に銘じて私達の愛するパラオをお勧めしています。

2010年12月、日本とパラオに大きな転機が訪れました。それは米デルタ航空が成田から直行定期便を飛ばすというビッグニュースだったのです。正直、私は自分が生きている間に日本パラオ間にチャーター便は飛んでも直行定期便は飛ばないと思っていました。
直行定期便の威力は凄いものがありダイバー、カップル、ファミリー、社員旅行、修学旅行と老若男女あらゆる階層のお客さまにお越しいただけるようになりました。お客さま、パラオ共和国の方々（ホテル、レストラン、ツアー関係者）、そして弊社の3者全てがハッピーになれる時代が訪れたのです。

2011年の東日本大震災ではパラオからお見舞いを頂戴し、逆にパラオがスーパー台風の被害に遭った際は日本から厚志を送ったりと日本とパラオはお互いに相手を敬い、尊重する素晴らしい関係を築いて来ました。

日本人の渡航者数は2012年の4万人弱をピークに、その後は日本航空のチャーター減便や2018年5月デルタ航空撤退に伴い昨年は22,000人まで落ち込みました。でも私達は悲観していません。パラオに行きたい！と思ってくださるお客様がたくさんいらっしゃいます。

そして日本からのお客さまを歓迎してくれるパラオの人々が待っています。日本とパラオの双方の熱い思いが私達の背中を押してくれるのです。直行定期便がなければグアム、ソウル、台北を経由してのツアーをご案内致します。そして日本航空と全日空も直行チャーター便の増便運航でバックアップしてくれています。本当にたくさんの方々に助けていただきながらパラオへの旅行をお届けしています。実は一番幸せなのは皆様に支えていただきながら仕事が出来る私達なのでしょう。ここに誌面をお借りして厚く御礼申し上げると共に読者の皆さまには是非世界一の親日国パラオを訪れていただきますようお願い申し上げる次第です。ありがとうございました。

日本人パイロットによる遊覧飛行も人気です。